


# あかあま

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

総合印刷物企画・プランニング・デザイン・印刷・加工・  
オンデマンドデジタル印刷・デジタルメディア企画制作



**半田中央印刷株式会社**

〒475-0032 半田市潮干町1番地の21  
TEL <0569> 29-2525 (代) FAX <0569> 29-4500  
E-mail: [main@handa-cp.co.jp](mailto:main@handa-cp.co.jp) <http://www.handa-cp.co.jp>

企画・制作：株式会社 新聞ビル

## 元気のでてくる「ことばたち」

179

### 村上信夫



本音楽コンクールに最年少で優勝。1979年、パガニーニ国際コンクールに入賞。国の内外で演奏活動を開始した。人もうらやむ輝く経歴、きらめく才能。だが、順風満帆のように見

に行った。恥ずかしいくらい、思うように弾けなかった。でも、患者さんは涙を流して喜んでくれた。嬉しいけど、こんなのでいいのかもしれない。ちゃんと練習していいから、うまく弾けないのが、申し訳なくて、罪悪感でいっぱいになった。その時の思いが、今に繋がっている。

「今までは、体で覚えて、練習して、技術を得て演奏するものだった。演奏は単に、音符を見て演奏するだけではない。身体の中から演奏するものだ。精神力がついてこそ、魅力的な演奏ができると思った。人の心を震わせるような演奏がしたい」と心底、思った。

亡くなったのは、6月27日。すくさま「andante」母・千住文子に捧ぐという曲を明さんが作曲。30日には、真理子さんがヴァイオリンを弾き、明さんがピアノを弾き録音、博さんが描いた絵をジャケット写真に使い、CDを完成させ、参列者に会葬御礼として配った。3兄妹の結束は固い。文子母さんの想いは、3人にきちんと引き継がれていく。真理子さんも、これまで以上に、母・文子さんを傍らに意識しながら、演奏していくにちがいない。

### 聴く人の心を音にする

#### ヴァイオリニスト 千住真理子さん

えるが、実はそうではなかった。20歳の頃に大きな挫折を味わっているのだ。

少しずつ、自宅でカンを取り戻すべく練習を始めたが、思うように演奏が出来ない。人前でも弾いてみたが、それまで上がったことがなかったのに、震えが止まらなかった。弾けば弾くほど、弾けなくなった。楽屋で、毎回泣いていた。

いまは、当時を振り返り、挫折は宝物だと思える。「挫折して、バネが縮んでよかった。縮んだら、次には伸びる時が来る」と思えた。

フルート奏者として活躍中、作曲家。絵画を幼少より日展画家(俳句、川村行雄氏に師事、俳画を華道彩生会家元、故・村松一平氏に師事、俳画の描法も)、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

3人の素晴らしい芸術家を育てあげたスーパーマザー千住文子さんが、先日、亡くなった。享年87。80を過ぎてからの心臓の大手術を乗り越え、この2年は、がんと向き合ってきた。多忙な子どもたちも、ことあるごとに母を支えてきた。長男、博さん(55)は日本画家、次男の明さん(52)は作曲家、長女の真理子さん(51)はヴァイオリニスト。

千住家には、もう一人芸術家がいると言われてきた。母の文子さんだ。安易ななぐさめの言葉は言わない。辛らつな批評家だ。「私なら、もっと人の心をつかんで離さない演奏をするし、もっと人を圧倒するような絵を描くし、もっと人を感動させる曲を作るわ」その言葉で3兄妹は奮い立ってきた。特に娘の真理子さんとは一心同体のようだった。母は演奏家としての娘を支え、娘は、病気になった母の命を守るため奔走した。120歳の母の前で、90歳の自分が演奏するのが夢だったという真理子さんは、つかえ棒がなくなり、困っている。

2歳から、送り迎えや練習でいつも一緒にいた母も傷ついた。母は、泣きながら辛い思いをさせたと言ってくれた。兄たちも「真理子が可哀そうだから」と賛成してくれた。父だけが「ダイヤモンドは磨いて傷つけないと光らない」と応じてくれなかったが、もうヴァイオリンを演奏しないし決めた。

「母の想いを受け継ぐ」文子さんの生前、インタビュをしたご縁で、通夜と告別式の司会を依頼されたのだが、日程調整が出来ず、断腸の思い

でお断りした。「母の顔を見ただけでもきてください」と真理子さんに言われ、通夜に参列させていたかった。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。

「母が亡くなった夜、3人で乾杯した。長い闘病から解放され、母が楽になっておめでとくだね。思い返せば、心の中いつも母がいる気がした。ここに参列の方々も、母を時々思い出してくださったら、母はいつも皆さんともいっている。忙しい3人が、母が旅立ったときは、一緒に病室で見送られたぞだ。



俳画/イネ・セイミ

好評発売中



ことばの種まき

イネ・セイミプロフィール



フルート奏者として活躍中、作曲家。絵画を幼少より日展画家(俳句、川村行雄氏に師事、俳画を華道彩生会家元、故・村松一平氏に師事、俳画の描法も)、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

常滑屋  
とき 午後二時・第四金曜日  
会費 一回 二二五〇円(三ヶ月分前納制)  
問合せ ☎〇五六九三三〇四七〇

インテリオン  
フルート教室  
開講しました

講師 イネ・セイミ  
11月～12月 毎週5,000円(テキスト4冊付)  
申込先 0565-88-7127  
scs@ine-seimi.com

# 慈愛の人・良寛(99) 杉本武之

良寛と宮沢賢治の20  
良寛と宮沢賢治の作品を  
すいつか読んでいさま

◎良寛の作品  
(1)俳句  
良寛は俳句を90句ほど  
作っています。父親の以南  
は一流の俳人でした。

●秋日和・小鳥集まる雪の朝  
●柴垣に小鳥集まる雪の朝  
●ほろ酔いの足もと軽し春  
の風  
●雨の降る日はあわれなり  
良寛坊  
●鉄鈴に明日の米あり夕涼  
み  
●和歌  
良寛は、万葉調のすぐれ  
た和歌をたくさん作りま  
した。良寛の和歌をよ  
く愛した斎藤茂吉の評語  
を付記します。

●山かげの岩間をつたふ苔  
水のかすかに我は住  
みわたるかも  
●(茂吉評語)「ゆつたりと  
て読み味わうに、平凡の  
うちに飽くなき味わい  
が出て来る」

●念を吐露して余りある  
歌である  
●世の中に交らぬとは  
ぞ我はまされ  
●(茂吉評語)「こういう内  
容の歌は、作るのに難し



良寛像(宮川祐斎画)

●あさゆみ春になりなば  
草の庵を 早く出て来  
ませ進みよもの  
●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(漢詩)  
良寛は漢詩に、自分の思  
想を盛り込みました。漢詩  
を読むと、良寛の人生観が  
よく分かります。東郷豊治  
の「新修 良寛」の現代語  
訳を添えます。

●(東郷評語)「生れながら  
騰騰天眞に任す。囊中三  
升の米、戸辺一束の薪。  
誰か問わん迷悟の歎何  
ぞ知らん名利の塵。夜雨  
草庵の裡、双脚閑等に伸  
ばす」  
●(東郷評語)「生まれつき  
じゃで、袋に米はまだある  
たまかせで行くとして、  
よりに依り、迷悟互いに  
相為す。古来其れ然りと  
為す。何ぞ必ずしも今  
のみみくくの如くならん  
と欲するは、唯だ一箇中  
の妙を言わば、誰か諸法

●(東郷評語)「待ちあぐんだ  
春の日差しに、枯れ草も  
些と色づく様、どおりや  
と山を下つて、得  
得として町に入る、とま  
喜子供が忽ち寄りつけ、  
喜々として駆け寄り集  
まって、お寺の前で押し  
合いへし合い、歩むもな  
にもさせてくれない。そ  
こで手の鉄砂の上に板が  
せ、ふるを松の下枝に  
掛ける。男の子とは草相  
撲をし、女の子とはお手

●(東郷評語)「待ちあぐんだ  
春の日差しに、枯れ草も  
些と色づく様、どおりや  
と山を下つて、得  
得として町に入る、とま  
喜子供が忽ち寄りつけ、  
喜々として駆け寄り集  
まって、お寺の前で押し  
合いへし合い、歩むもな  
にもさせてくれない。そ  
こで手の鉄砂の上に板が  
せ、ふるを松の下枝に  
掛ける。男の子とは草相  
撲をし、女の子とはお手

この指とまれ (210) 氏原朝信

●学級編制と担任は  
常滑小学校では、一学年  
三百名以上の入学児童ある  
一幼種園と七保育園から入  
学するためなのか、一年生  
は、誕生月順で学級編制が  
されていきました。一組は四  
月生まれ、二組は五・六月  
生まれ、三組は七・八月  
生まれといった具合に編制  
されます。三年生まで学級  
編制もななく続きます。四年  
生になるときに学級編制が  
されます。六年生まで同じ学  
級で三年間続きます。

●(茂吉評語)「何の理屈も  
言わずに、独り言のよう  
に寂しい心を漏らしてい  
る。良寛らしい法師が、  
こんな夜にどうという事  
を為して暮らしたかとい  
う事を知りたい」

●(茂吉評語)「一首の調べ  
も張っており、良寛の信  
したもので、良寛歌集中  
の秀歌である」  
●法の塵に汚れぬ人はあり  
と聞けど、正目に一日見  
し事あらず  
●(茂吉評語)「一首の調べ  
も張っており、良寛の信

●(茂吉評語)「ゆつたりと  
て読み味わうに、平凡の  
うちに飽くなき味わい  
が出て来る」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

●(茂吉評語)「結句は古  
今独歩である。予は古歌  
を味わうに際し常に結  
句に注意し、自ら作歌す  
るに際して、一番結句に  
焦心している。この歌の  
結句ほど利いている。換  
言すれば、首に響き渡る  
事を発見しているゆえ  
に、この歌を涙を流して  
恭敬するのである。有り  
難くも有り難き結句で  
心ゆつたり任せている」

誠意をこめて安心のお手伝い  
年中無休・24時間体制

## (有)大阪屋葬祭

常滑ホール / 鬼崎ホール / 阿久比ホール

TEL:0569-35-4949 (代表)  
FAX:35-4911

知多の新鮮たまご  
発酵ケイフン

## (有)知多エッグ

知多郡武豊2ツ峯380  
TEL:0569-73-6341

長澤晶子のSPEED★COOKING!

### 簡単! おうちでライスバーガー

運動会や行楽など手づくり弁当をもっと出掛けたいシーズンですね。  
ハンバーガーチェーンが売られているライスバーガーを  
おうちでつくって自慢しちゃいましょう!!

材料  
A ごはん...茶わん4杯(炊きたて)  
B サラダ油...適量  
C 豚もも肉(薄切り)...200g  
D 酒...60cc ・しょうゆ...大さじ2 ・砂糖...大さじ2 ・水...60cc  
E にんにく(すりおろし) ・しょうが(すりおろし) ※すべて、まぜておく  
F にんじん...1/4本(2.5~3cmの細いせん切りにする)  
G ごぼう...1/6本(土を洗い、ささがきしてから細いせん切りにする。  
水にさらし、あくをとるのを)  
H 油...適量 I 白ごま...適量 J 塩...適量

準備  
★ラップを8枚に切り、それぞれを分け、平たいおせんべいのようにしっかりと押さえ形をつくる。(ごはんがうまくつぶせる)

作り方  
①フライパンを熱してAを敷き、Bを中火で、焼き色がつくように焼く。  
②Aを加え、中火弱にして蒸かす。  
③別のフライパンにCを敷き、Dをいれたため、Eを味をととのえて  
④Aを加え、Fを加える。  
⑤★で用意したGを、フッ素加工のフライパンで熱して、うす油を敷いた  
ところへ並べ、中火で両面、焼き色がつくよう焼く。  
⑥ごはん...  
豚肉つけ  
ごぼう、にんじん  
ごはん

9222222222

常滑市民文化会館  
常滑高等専修学校 開校45周年記念  
常滑青年会事務所  
常滑市立常滑小学校  
常滑市立常滑中学校  
常滑市立常滑高等学校  
常滑市立常滑図書館  
常滑市立常滑公民館  
常滑市立常滑生涯学習センター  
常滑市立常滑体育館  
常滑市立常滑市民バスケットボール常滑大会  
常滑市立常滑市民バスケットボール常滑大会  
常滑市立常滑市民バスケットボール常滑大会  
常滑市立常滑市民バスケットボール常滑大会

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職

—自分ドラマつくり— (29) 岡田 清治

婿の就職
その子は台所に行つて戸棚からファイルを取り出し、息子からの手紙を探した。
新しいカップにミルクティを入れ、ビスケットと一緒にファイルを頁三のところに持ってきた。

「あいました。これです。空飛ぶペイビーモーニーですって」とよく保存していたね。
「休日にでも息子に聞いてみます」

「頼む」
「わかりました」
とるり子は息子が話ができるさっかけを喜んだ。

「若い人は外国に行きたがらないと見られているが、目的を持っている人は海外で学んでいるよね」
「そうですね。彼女の場合、日本で働いていたニュージランドの方が、インドのヨガ教祖のところに案内してくれたので、日本にいる外国人仲間と出かけたみたいですよ」

「ところで、ファミリーレストランのチェーン店に勤めている頃、社長に頼まれてガイジンを講師に招いたことがある。社長が読書好きだったので、彼の著書『ガイジンの見た日本』を贈呈したら、後日、ぜひ当社の幹部研修会に来てもらって話をしてほしいということになった」

「どうなの」
「その時の演題は願想から覚めよ、日本人で、早くから露骨を喝らして来た」
「興味深いですね」

「三は記憶にあることを話した。
日本は品質のいい自動車や家電製品をつくつたが、健全な思想次代を背負う子どもたちを育てる努力をすまなかった。日本は経済発展一辺倒になつたのではないか。
（これは一九九八年の講演で、日本はバブル経済がはけて失われた十年と言われた頃である）

子どもたちの行動や考え方は、そつくりそのまま日本企業の縮図でありながら原点となつてゐる。日本の親たちはいとも簡単に子どもへの教育を学校の先生や学習塾に任せてしまう。父親は企業に全身を打ち込み、母親は家庭をともども、子どもたちのねらにしています。まるで家庭も工場と同じように分業できるかのごとく考へているようである。しかし、それは間違つてゐる。子どもを教育できるのは親だけなのだ。
人を裏切つてはならない、恩を忘れてはならない、嘘をついてはならない、目上の人には尊敬するものだ、弱い子をいじめてはいけない、など、すべて教えられるのは親である。過ちを自覚させ、許すことができるのは親だけだからだ。失敗を恐めてやれるのも親だけだ。

「その通りだと思いますが、日本は時代の流れにのみ込まれましたね」
「時代の先はいつも読めない。確かに戦後、モノのない時代はじみだつた。るり子は田舎で果樹農家に育つたから、そのむじみ思いをしていないだろうが、都会では一部の金持ちの家を後で食べ物の確保だけでも大変だつた」

その後、日本は急成長しましたね。
「ガイジンの言通り、カネ、経済一辺倒で、大切なもの、とくに教育は偏重教育、詰め込み式、受験教育に偏重し、道徳や倫理教育をおろそかにしたツケがきた感じだね」

「しかも少子高齢化社会で、日本の未来に希望が持てなくなる気がしますね」
「いやいや、日本人は優秀だから必ず新しい方向を見出し、うまくやつていくことを信じるね。ただ、塾教育は日本だけで、なぜ義務教育だけで対応できないのかと外国人に不忠議がられる」
「本当にそう思いますね。それにも政治の世界が不安定です」



イースター島(著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は就職物語「日本のゆくえ」結婚「夫婦」インドについてです。物語が進行する中で繰り返すことを読み、一緒に考えます。
FAX: 0569-341-7971
メール: takamishi@akashiuniversity.net



著者・岡田清治おかせいじ
一九四三年生まれ ジャーナリスト
編集プロダクション「NEE108」代表
著書に「高野山開創二百年 いっぴんさん行状記」心の遺言「あなた社員は全能力を引き出せませう」
「リヨンで見た虹」など多数

「問題はそこだろうな、いずれにしてもインドで勉強することは有意義だが、大変だよ」
「勇気も要りますね」
「そのつもりは久しぶりゆつたりした気分でお話を交わした。
「話が終わりましたね」
「インドとパキスタンは分離独立したが良かったのか」
「インドに聞いたことは先に述べた。
「インドとパキスタンは分離しない独立して、いたら強大な力を持つていた」
「彼はそう思つて残念がら」
「宗教的な対立から分離したの？」
「日本でも仏教、神道、キリスト教などが問題なく同居している。旧インド社会でもヒンズー教とイスラーム教も同じだった。ところがイスラームが巧みに分離独立させ、裏で実効支配を続けたのだ」
「これはインド人だつたアット大統領の時に起こつた二例だが、パキスタンでもインドでも部族社会だから、一筋縄で統一することが想像以上に難しいのではないかと」
「日本では考えられませんか」
「ガイジンが独立後もとも早く、就んだ本が『インド・パキスタンの独立一夜、自由を（仏米のジャーナリストの共著だといふ。俺も読んでみた。さすがにジャーナリストだけあつて読みやすく、克明に取つてゐると思つた』
「一九九〇年の初め、著者の一人（仏）が友を通じてガイジンを訪ねて来たことがあつた。
「仏人の妹（スペイン人）がなんにかかつて、私の知り合いの企業でつづつていたインターフェロンを手に入れるためだつた。だからまる一日一緒に過ごしたことがあると話す。
「すごいですね」
「後で他の本を読んでいこうに気がついたので、彼らの本は若干西洋寄りの内容で」
と、ガイジンはコメントした。

「歴史を振り返る時、一八五七年の出来事はインドの独立運動として見るか、反乱として見るかによつて評価が分かれる。
「日本の教科書ではセポイの反乱として扱われている。
この大反乱は、一八五七年五月、インド北部の都市ムバートでシパーヒーが起したことに始まる。シパーヒーはイギリス東インド会社が編成したインド人雇員のことです。セポイともいわれる。この反乱の責任をどうイギリス東インド会社を解散させ、ムガル帝国は終焉、イギリスを直接統治することになった。
そして、一八七七年にはキリストのウグアトリア女王（宗室権下に入り、第二次世界大戦後の一九四七年までイギリスの植民地が続いた。
週末、真三は東京で久しぶりにガイジンと会つた。
「元気をさだね」
「真三さんはスカイで顔をながら話しているの、久しぶりという感じがしないです」
「そうだね」
「一人はレストランに向かつた。以前からガイジンは豚肉を食べないことまで徹底していたが、だしに豚肉は使っていない」と聞いたので、そこまでするのか、だしに豚肉は使っていないか」と聞いた。
「真三さん、気を使つていたんだかありがどう」
「どういたしまして。中国人や沖縄人はどう思うだろうか」
「インド人は豚肉を食べても牛肉を食べない。イスラームは逆です」
「ですか」
「魚は食べます」
「だったら日本食は大丈夫なんだ」
「はい」
ホテル地下の和食のレストランに入った。
「真三さん、おなほ話したが、どういうことですか」
「真三は婿のことについて事の起りか話してあげた。
「ガイジンは真三の父に来て、親父とは会つたことがあるが、兄弟はあつていなかった。
「新聞記者を志していた、蔵下の弟で、名前を善健太郎と言つた」
「ところが今はないの」
「子どもが小学校六年生の時に病死した」
「病氣のことか」と話すが、彼は「度目の結婚だった。最初は学生結婚で二人の子もがいた。ところが映画の趣味の会で国立大学の生化学専攻の女子学生と知り合った。
時々、自分の家に招いて健太郎の家族と一緒に食事をして、健太郎の女房が黙つてゐるなど不忠議に思つたことがある。
「おそく年齢も開いてゐるが安心したのかもしれないね」
「ところが、私が電話で離婚するから協力してほしいと言つた」
「それは驚きだね」
「真三は親父とも話して、なんとしても離婚させない方向でまとめることを考へた。狭い地に健太郎を招いて、カニ鍋をつつきながらお茶に話しかけようとして提案した。二人はやつてきたが、女房の方は健太郎がその女子学生と関係ができてゐることを知つてゐるものだからカニ鍋を皿を話しかけようとした気が持たせてゐなかつた。
健太郎と会つた女房はいきなり健太郎の顔を平手打ちした。
すると健太郎は離婚してくれと叫ぶように言い放つた。
真三は一人を落ろかかそうと、なだめすかしながら取り持つた。健太郎の女房は黙り込んだかと思つた、急に泣き出した。そしてしばらくして出て行った。ふたりの後、会うことはなかつた。
「健太郎、お前、三人も子どもがゐるのに無責任ではないのか」
「もつ、自分の気持ちを抑えきれない。知り合いの牧師さんにも相談しているが、離婚はせずに話しかけて解決しないと言つただけで、どうにもならない」
「相手は学生だろ。これが知れたら非難を浴びるよ」
「実は困つても、部で知られてゐる」
「それは因つたな」
「やがて健太郎の女房は女性弁護士を通じて健太郎と交渉を始めた。
「善健太郎さん、離婚をするためには子どもの養育費、大学卒業までの教育費、それと家のローンを支払つて譲渡することが条件です」
と、女性弁護士はきつぱりと依頼人の希望を伝えた。
「わかりました。できるだけ早く連絡します」
健太郎は別れることができるなら、どのような条件を提示されても心算を固めてゐた。

絵手紙集



絵文 縦山善久

返文 小林玲子

縦山善久

昭和十一年碧南市で生まれる。丸栄陶業株式会社代表取締役。碧南商工会議所会頭。愛知県陶器瓦工業組合理事長。全国陶器瓦工業組合連合会理事長などを歴任。平成二十二年旭日小授章受賞。丸栄陶業株式会社取締役会長 現任に至る。京都造形芸術大学・通信教育部芸術学部美術科。洋画コース三年次在学中。

小林玲子

碧南市に育つ。西尾市在住。共著「西尾の民話」童話「サケの子ビッチ」随筆「海辺のそよ風」(中経コラム「閑人帳」より) ミュージカル脚本 「みぐりちゃんのおうち」ほか



朝に口突き、夕べにしほひ、一日花

愛嬌よし  
隣家の庭に  
白木槿

厳しい残暑に、秋の訪れを願う心がつのります。その想いを中秋の名月に託し、お涼の茶会を催す時、茶席の床には白木槿枯槿撫子ススキ・山さぼろしの五種の花が飾られます。木槿は朝に開き、夜にしほひ一日花で、ほかほかな様子は、清々しく爽やかで涼一味の演出には欠かせません。今回絵手紙に何を描くかと迷っていたら隣の空家の庭に木槿が咲いていると家内から聞き、ちよいと一輪先敬して描きました。木槿の花は大韓民国の国花です。

重陽の節句が終りましても残暑が去りません。それでも夜露が地熱を消してくれるのでしょうか。朝日の昇る前の一刻は爽やかな涼風を感じます。韓国女性のかんばせのような、楚々と美しい白木槿の御絵手紙を頂き、ありがとうございます。夏は木槿、冬には椿と茶室によく合う花ですね。なるほど韓国の陶磁器のふうわりと柔らかな肌合は木槿の面影です。芙蓉も似た花ですが妖婉で茶花向きではありませんね。嫋々たる風情は唐美人のそれでしうか。文化の違い、好みの違いも惚ばれて御絵に見入っております。くれぐれもご自愛下さいませ。乱筆のまは



### わが家のニューフェイス



柴川萌愛(4才4ヶ月) 妃菜(8ヶ月) 武豊町中狭

|      |                                 |                              |                                |                            |                                |                                |                             |                   |              |                    |
|------|---------------------------------|------------------------------|--------------------------------|----------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------|--------------------|
| 写真・文 | らも<br>仲良し<br>姉妹で<br>いたいで<br>す♡♡ | ママを<br>かんぱつ<br>ています<br>の。これか | て楽し<br>ませ<br>てあげ<br>てあげ<br>たりし | あげたり<br>、歌を<br>歌って<br>あげたり | ですの<br>最近、<br>離乳食<br>を食は<br>させ | ました<br>と、と<br>てもう<br>れしか<br>つた | 妃菜ちゃん<br>ですの<br>妃菜ちゃん<br>が産 | 去母か<br>あいい<br>妹か産 | の名前は<br>萌愛です | この前は<br>は!!おた<br>し |
|------|---------------------------------|------------------------------|--------------------------------|----------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------|--------------------|



### 愛とMy Family



加藤虎皇(1才3ヶ月) 常滑市字南古千代

|      |                               |                                 |                                 |                                  |                                |                                      |                                       |                                 |                                |   |   |
|------|-------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---|---|
| 写真・文 | ら今度<br>は心と<br>行きた<br>いかな<br>か | はおじ<br>いちゃん<br>と一緒<br>に行っ<br>たか | もいっ<br>ぱい<br>楽しんで<br>よ♡この<br>前は | で浮ける<br>ように<br>になっ<br>たよ!<br>お友達 | にくっ<br>ついて<br>いたよ<br>、もお<br>一人 | つたり<br>もする<br>んだよ<br>。いっ<br>つも<br>ママ | 暑い日<br>が多<br>い<br>!バ<br>タ足<br>も持<br>ち | 暑か<br>らと<br>?始<br>めた<br>ん<br>だ。 | ルに<br>通い<br>始<br>めた<br>ん<br>だ。 | の<br>名<br>前<br>は<br>最<br>近<br>フ<br>ォ<br>ー<br>ミ<br>ー<br>だ。 | は<br>じ<br>め<br>ま<br>し<br>て<br>。<br>お<br>く |
|------|-------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---|---|



## 誠意と真心で...あんしんのかげはし

### 葬儀のすべてをお引き受け致します

24時間体制完備

# CSK葬祭

## 0120-33-5909

常滑市 あいち知多農協・冠婚葬祭友の会指定特約店



**TEL.0569-44-2234**(直通)  
常滑市青海町1丁目1番地<国道155号線沿い>  
100台駐車可能の大駐車場完備



**TEL.0569-35-2785**(代表)  
常滑市北条1丁目34番地  
200台駐車可能の大駐車場完備



## さわやかライフを応援します。ドラッグつるみ屋

タルミ店 常滑市樽水町1-141-2 TEL<0569>35-6628  
willセラ店 常滑市鯉江本町5-168-2 TEL<0569>34-8815  
鬼崎店 常滑市新田町5-81 TEL<0569>43-7778

イシハラフードは お客様と共に「安心」「安全」「おいしさ」を食品を通して考えています。



確かな味、信頼の品質、地元商品の育成。  
わたしたちには「こだわりの商品」がたくさんあります。

総合ビルメンテナンス  
株式会社



常滑市新開町2-40 TEL<0569>34-6565(代)

### 第1回 中日新聞 知多半島検定 初級編

~中日新聞をより深く読んで 地元のことをもっと知ろう!!~

試験日時 平成25年 10月26日(土) 受付 9:30 開始 10:00

- 試験会場 半田商工会議所 3階大会議室 (対象地域 岡久比町・半田市・常滑市・武豊町・美浜町・南知多町)
- 定員 100名程度 (参加資格 上記対象地域にお住まいの小学校4年生以上の方 (年齢制限はございません))
- 検定料 500円

お問い合わせ ☎ 0120-297-100 中日新聞 主催:中日新聞社・中日新聞知多南支部